

謹賀新年

若菜つむ七草摘みで幕開けを 農園に初鳴き響く丸山か 七草や鶯聞きて顔合わせ
あけましておめでとうございます。

すべての会員の皆様いかが新年をお迎えされたのでしょうか

里山の会は事務所の解体が始まりますし、地域説明会もお正月過ぎにすぐ開始です。そして月末には中聖牛の組立が予定されています。それに木津川の希少種の刈り倒した草の運びだし等の大仕事があります。また年齢を重ねたので体力の低下も進行しています。これ乗り越えるために氣力を頼りに頑張ろうと決意を固めています。皆様も一緒に積極的に頑張ってくださいね！！

2022年 元旦

理事長 大村幸正

●正月早々年配の女性がお越しになりました。賀詞を交換の後の話で、これまでお正月に親戚が来て、おじいさんおばあさんが無理をしてお年玉を奮発してきました。このたび、孫の長男が成人式を終えて就職をしたので、今年は私がおばあちゃんに「お年玉」あげると言ってくれたんですわ、私その気持ちがうれしくてうれしくて孫の前で目がうるうるになってしまったんですわと、本当に孫の成長が嬉しそうに語っておられました。聞いていた私も大変うれしく思いました。孫が大きくなって、そして少ない給料の中から思ってもいなかった贈り物だけじゃなくて、小遣いの中からくれた気持ち・・・うれしかったんでしょうね。年をとって元気に正月を迎えられて、よかったですね。

●新年甘南備山への初登りは京田辺の大切な取りくみで、市の文化協会が主催し450人が参加したと報道されていました。かなり登ると歩道の谷あいには真っ赤な実をつけたタマミズキに出会うはず。皆さんお気づきになられたでしょうか。甘南備山に20本生育しているのです。これは里山の会が発足してすぐの頃、正月3日に登山者の皆さんに七草摘み、七草粥への参加呼びかけのチラシに、甘南備山にこの木のあることを書いてお知らせしました。枯葉は全て落ちて赤い実が花のように見える姿は本当に立派です。また実に雪が積った景色も、これまた見事です。今年も雪が積もればよい景色になるだろうと期待していましたのに少し残念でした。この取り組みは文化協会の発足時に田辺郵便局長の中川健三さん、林憲三先生、社会教育主事の博田武則さんが、結成されたばかりの田辺町青年団と力を合わせて取り組んだのが始まりです。健康が丘にお住いの田辺町体育協会の会長をされていた田村智市さんが地域の皆さんに強く呼びかけていただいて第1回目を成功させてくださいました。その時は和服で山頂まで来られたご婦人方が印象的でした。

●1月の予定をお届けいたします

1月13日	中聖牛の木材と石材の納入	1月16日	地域説明会	久御山町ゆうホール	
1月22日	イタセンパラ講演会	井手町勤労センター	1月23日	中聖牛設置場所の杭打ち	
1月26日	地域説明会	宇治田原町町民体育館	1月30日	中聖牛組立初日	精華町設置現場

これ以外にも木炭竹炭の原料運び込み、木津川希少種除草作業の刈草集草と運搬作業、そして地域説明会の展示物の制作などがあり、正月早々全力での活動が待っています

●2022 年は新型コロナウイルスの拡大を心配しなければならないようです

新年早々の取組みも苦慮しなければなりませんでした。大筋こうした状況を把握頂いておられることでしょうか、里山の会の定番活動で代表的な「七草摘み、七草粥」の取組みは中止するのが京田辺市を活動の拠点している本会の取り組むべき対応策だと認識いたしました。期待されておられた皆さん方には申し訳ありませんがご了解ください。

●正月早々寒波の襲来も予想される天候です。お正月の食料品はいずれも値上がりし、異常気温が海でも陸でも、農産物・海産物の食物生産に大きく影響を与えています。一方、河川水害や土砂災害そして火災などの自然災害も大型化し予想以上の規模に大きくなってきています。落ち着いていた人間の暮らしにも大変化の時期を迎えているようです。里山の会も昨年結成 25 周年を迎え、2022 年は事務所を新しく構えなければならなくなり、まさに人心一新の年として「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」スローガンの実現に向かっての役割が深くなって来ているのではないのでしょうか。地球規模の大きな出来事に対して、小さな小さな取組みしかないかもしれないけれど、『アリの一穴』ということわざがありますが、身に余るほど大きなことでも始めなければ何もできないとも言われてきました。里山農園の丸山の整備も手刈りの小さなのこぎり鎌によってなしとげることができたのです。25 年の成果を基礎にして、新しい 1 年を築いていきましょう。

●年末にできるだけ施設設備の整理整頓

1 年の計は元旦にありとして出発を大切にしてきました。改めて振り返ってみると草内の倉庫の整理整頓は置き去りになっていました。倉庫前の通路は幅が広い大型自動車が各方面から入ってくる道路でもあり、里山の会の倉庫は長年活動に理解と協力をいただいて、ほとんど無償で使用をさせていただいてきました。活動には必要でなくてはならない大切な施設です。今ではあって当たり前のように扱っていますが、この備品置き場があってこそ活動を展開できているのですが、その効果を軽く考えているようになっていないのでしょうか。地域の方々は倉庫前を歩いて散歩とかに利用されていて目立った施設になっています。借用し利用させていただいている里山の会は、人一倍好意に感謝が必要だと思いました。たまたま大村幸正理事長は通りがかって草刈りができていないのを発見し、多忙で貴重な年の暮れの 30 日 15:00 頃から草刈り作業を行っていただきました。貴重な時間を割いての作業ありがとうございました。

●事務所と私（山村）の年末年始

事務所は今年解体する予定なので、散らかっているものを片付ける程度の清掃にしました。私（山村）は、永年の無理がたたって一昨年脳梗塞を患い、昨年初めに退院したものの足が不自由な身体になりました。リハビリ等をしながらがんばっておりますが、出来る事なら何としても歩行機能を取り戻そうと思い、昨年末の歩き納めで 8000 歩、新年の歩き初めでも同じルートを歩きました。新年には、身体が少し軽くなった感じでやる気と元気の明るい兆しの見えた歩き初めでした。

●炭焼き用の木材の運び込み

新年早々、5 日の事務局会議の後、午後から山城町の流域センターから炭焼き窯の場所まで、炭材としてのヤナギなどを軽トラで 4 台分運び込みました。1.35m という長さで炭材としては長くて、また太い木が多かったのも、今後の作業が少し思いやられます。

